

本校の情報モラル教育について

さいたま市立ひまわり特別支援学校

1 本校における情報教育の実態

本校は肢体不自由特別支援学校という特性から、児童生徒のほとんどがパソコンの操作性に困難がある反面、興味深く、楽しみにしている学習の一つである。小学部、中学部、高等部の各学部では、インターネットを使って各教科等の学習や行事の事前学習などに取り組んでいる。以上を踏まえて、情報モラルの学習を行っている。

2 ねらい

- 携帯メールでは、相手を傷つけたり、自分が傷ついたりすることなく、気持ちよく有効に利用できるようにする。
- 安全で楽しくインターネットを利用できるようにする。

3 取組

●内容

(1) 他校の児童生徒と携帯メールでのやりとりを行う場合のマナーやモラルについて学習する。

- ・メールを発信する時は、気持ちよくコミュニケーションができるように、相手のことを思いやる気持ちを持って内容を考え発信することが大切であることの事例等を交えて、発達段階に応じ、具体的にわかりやすい言葉や視覚支援などを図って説明する。

(2) 自分の身は自分で守ることが大切であることを学習する。

- ・インターネットの画面上に出てくるサイトには、有料のもの、セキュリティで保護されていないもの、違法なものがある。サイトを開く時には、学習目的に沿ったものを、内容を確認してから開く必要があることの事例等を交えて、発達段階に応じ、具体的にわかりやすい言葉や視覚支援などを図って説明する。
- ・相手からいたずらや悪意のあるメールが送られてきた時は、周りの大人に知らせるとともに助言を受け、適切な対処をすることが大切であることを説明

する。

●実践例

◎情報の授業の取り組みを通して

・高等部 A さん

情報モラルの話に興味深く聞き、(1)(2)の内容を記した資料を教員と一緒に読み合わせをした。本人は、(1)(2)の内容については、ある程度理解していた。知らないメールが来た時の対処については、どのようにしてよいか知らなかった。そのため、本人に理解を促し、教員や保護者とともに安全に利用している。

◎総合学習の授業の取り組みを通して

・高等部 A さん

情報モラル(1)(2)の内容に興味を持って聞いていた。教員と一緒にプロフィールサイトやユーチューブなどを開けて、有名な人や会社をアピールする文章や動画を見て、「こういうサイトもある。」と実感し、悪用されると危険であると学んだ。普段は教員や保護者とともに、パソコンやインターネットを利用している。

・高等部 B さん

教員が授業中、「インターネットの画面にはお金のかかるサイトもあるし、見られてしまうサイトもあるから、むやみにあけないよ。」というように説明した。「気を付けてね。」と言うと、「わかった。」と答えた。

・高等部 C さん

情報モラルの話に興味を示していた。有料サイトやセキュリティに守られていないサイト、いたずらメール、ブログ等での書き込みに悪口やいじめの内容があることを、周りの大人たちの会話やテレビなどの情報から知っており、注意しながら、教員や保護者とともに利用している。

4 成果と今後の課題

本校は特別支援学校という特性から、パソコンを使う学習は教員や保護者と一緒に行える範囲で行っているのが現状である。教員や保護者のアドバイスを受けているため、安全性が確保できる環境にあると考えられる。今後も、教員や保護者とともに、少しずつ着実にパソコンでの学習や、情報モラルについての認識を深めていく教育を行っていきたいと考えている。